

# 観光業を利用した地域経済活性化 ～観光地間の相互作用を高める～

FLP 地域公共マネジメント 根本ゼミ  
期末成果報告書

A 生  
中島鈴  
藤川華嘉

## 〈目次〉

1. はじめに
2. 駒ヶ根市の現状
3. テーマ設定
  - 3.1 駒ヶ根市の観光業の現状
  - 3.2 現状分析
4. 政策提言
  - 4.1 観光地循環バスの導入
  - 4.2 先行事例
  - 4.3 観光地循環バスの運行例
  - 4.4 パークアンドライド方式
  - 4.5 インバウンド促進
  - 4.6 駒ヶ根市のインバウンドの現状
5. 結論
6. 謝辞
7. 参考文献

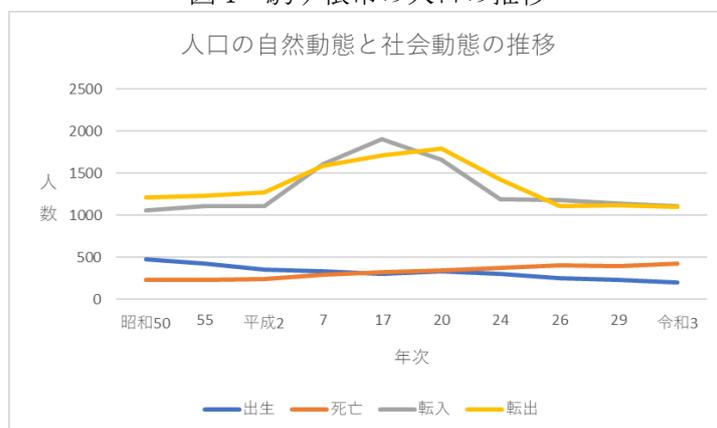
## 1. はじめに

本報告書は、駒ヶ根市の現状からみえる人口減少と雇用流出を防ぐため、駒ヶ根市の主要産業である観光業を利用し地域経済を活性化させることで、結果として人口増加と雇用増加を実現することを目的とした政策を提言する。駒ヶ根市の観光業の課題点発見から、課題改善に繋がると考えた政策を報告する。

## 2. 駒ヶ根市の現状

駒ヶ根市が現在抱えている課題の中で、人口減少と雇用流出について取り上げる。駒ヶ根市の人口は2014年から転入・転出という社会動態が停滞している。自然動態は減少しているため対策を取らなければ、この先も人口減少に拍車がかかることが予想される。雇用については、令和5年度の市民満足度調査から、「働く場の確保など雇用対策が充実している」という項目の満足度が5点中2.8点と重要度が5点中4.3点にも関わらず低くなっている。従って、今後起こりうる人口減少・雇用減少を防ぐために地域経済を活性化させる必要がある。

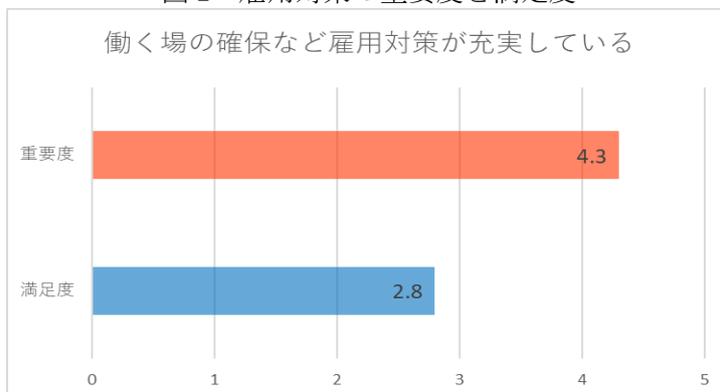
図1 駒ヶ根市の人口の推移



出典:長野県駒ヶ根市「令和3年版駒ヶ根市の統計」

R3komaganeshinotoukei.pdf (city.komagane.nagano.jp) (2023/1/29に最終アクセス)

図2 雇用対策の重要度と満足度



出典:長野県駒ヶ根市「令和5年度市民満足度調査結果報告書」、「長野県駒ヶ根市公式サイト」

<https://www.city.komagane.nagano.jp/soshikiichiran/kikakushinkoka/kikakuchoseigakari/1/1/10397.html> (2023/1/29に最終アクセス)

駒ヶ根市の商工業や農業をはじめとする主な産業の中で、駒ヶ根市特有の自然資源を生かすことができる観光業を利用し地域経済活性化を目指す。観光業で経済発展させるためには観光収入を増加させる必要がある。観光収入増加の流れを以下のように考えた。

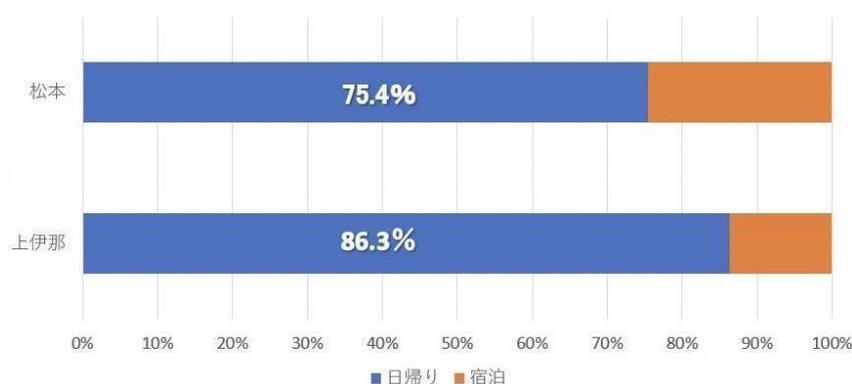
- ①駒ヶ根市にきた観光客が複数の観光地を巡る
- ②駒ヶ根市の滞在時間が長くなる
- ③消費額が増える

### 3. テーマ設定

#### 3.1 駒ヶ根市の観光業の現状

現在の駒ヶ根市の観光業の特徴は3つある。1つ目は千畳敷カール、駒ヶ池、大沼湖などの自然資源が豊富にあること。2つ目は、観光地が山間部に集中していること。3つ目はJR駒ヶ根駅から観光地が集中している山間部までは車で10分程離れていることだ。また、駒ヶ根市を訪れる観光客は日帰り客が多い。駒ヶ根が含まれる上伊那の日帰り観光客数が占める割合は86.3%で、長野県内の同じ山岳観光地である上高地と比べても多いといえる。

図3 日帰り観光客の割合



出典:長野県観光山岳高原観光課 「令和4年観光地利用者統計調査結果」  
r4kankoutiriyoushateisei.pdf (nagano.lg.jp) (2023/1/29に最終アクセス)

次に観光消費額については以下の図4の通りになっている。駒ヶ根市の主要観光地4カ所の合計と、長野県内の同じ山岳観光地である上高地の観光消費額を比較する。駒ヶ根の主要観光地の観光消費額の合計は27億5,144万円、上高地の観光消費額は35億9,135万円となっていて、約1.3倍となっており、駒ヶ根の観光消費額は少ないといえる。

図4 観光消費額

観光地名	観光消費額 (千円)
中央アルプス駒ヶ岳	744,400
駒ヶ根高原	1,854,900
光前寺	100,000
駒ヶ根シルクミュージアム	52,140
合計	2,751,440
上高地	3,591,350

出典:長野県観光山岳高原観光課 「令和4年観光地利用者統計調査結果」  
<https://www.pref.nagano.lg.jp/kankoki/sangyo/kanko/toukei/documents/r4kankoutiriyoushateisei.pdf> (2023/1/29に最終アクセス)

### 3.2 現状分析

なぜ日帰り観光客が多く、観光消費額が少ないのだろうか。それは千畳敷カールのみを観光して帰ってしまい、観光地同士の相互作用が働いていないからだと考えた。

駒ヶ根市で観光地の相互作用が働いていない原因は3つ考えられる。

- 1 山間部にある観光地同士が離れている…図5
- 2 山間部の道路整備が不十分である
- 3 観光地を巡ることのできる交通手段がない…図6

1については、千畳式カール以外の観光地は離れた場所に位置していて、それぞれ距離がある。加えて歩道もないため、徒歩では周りづらい。

図5 山間部の観光地の位置



出典:Google 社「Google マップ」

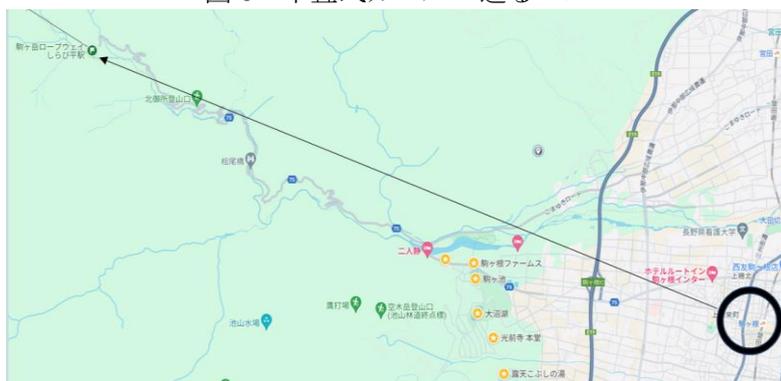
<https://www.google.com/intl/ja/permissions/geoguidelines/>

(2023/12/2 に最終アクセス)

2については、市民アンケートの「道路整備の満足度」と「市道に不足している機能や役割」という2つの項目に着目した。道路整備の満足度では、満足と答えたのは運転者が42.8%、歩行者は27.4%。不満と答えたのは運転者が29.0%、歩行者は35.4%であった。また市道に不足している機能や役割は、「歩行者や自転車の通行に安心・安全な道路」という項目に48.5%、「運行が心地よい維持・管理が行き届いた道路」という項目が35.0%、「災害時でも緊急車両等がスムーズに通れる道路」という項目に34.2%が必要だと回答していた。この結果から、約3割の人が道路整備の現状に不満を持っていて、3~5割の人が、安全面と利便性の向上を求めていることがわかった。現地調査から、道が整備されていないことに加えて、山道で勾配が激しいため、地元の人でないと運転が難しいとわかった。

3については、観光地を巡るための交通手段として駒ヶ根駅から千畳敷カールに登るためのロープウェイへのバスは出ている。しかし、千畳式カール以外の他の観光地を来訪するための交通機関はない。

図6 千畳式カールへ通るバス



出典:Google 社「Google マップ」

<https://www.google.com/intl/ja/permissions/geoguidelines/>

(2023/12/2 に最終アクセス)

#### 4. 政策提言

##### 4.1 観光地循環バスの導入

駒ヶ根高原に点在する観光地間には距離があり、徒歩・自家用車・そのほかの公共交通機関では巡りにくいため、観光地循環バスを導入することで観光客が観光地を巡りやすくすることが必要である。この観光地循環バスでは、駒ヶ根高原の宿泊施設や観光地をルートに組み込むことを想定している。宿泊施設をバスルートの起点とする理由は、自家用車を使わずに駒ヶ根市を訪れる観光客が観光の拠点とすることができ、観光客の滞在時間を増加させることができるからである。また、収益を見込めない状況でいきなり運営費用を市に一任することは難しいため、宿泊施設や観光地に寄付金を募り、不足部分を市が補助金として補填するという運営方法を提案したい。運営が安定した場合には、完全に市が運行することも可能である。

##### 4.2 先行事例

ここでは、地域公共交通の活性化・再生についての先行事例を見ていきたい。宮城県石巻市の稲井地区では、市の中心部から遠距離地までは約 20 km に位置している。平成 16 年までは、路線バスや廃止代替バスなどの様々な形態で地域公共交通機関が運営されていたが、平成 16 年 11 月に廃止代替バスの廃止によって、地区の大半において公共交通機関が存在しない状態となった。その際に稲井地区で実施された住民アンケートにおいて住民の意向が確認され、定時定路線の乗合タクシー「いない号」を導入する運びとなった。「いない号」の主な運営方法は以下のとおりである。

- 1 運行形態：定時定路線システム
- 2 運行費用：地区の全世帯から負担金を募る
- 3 運行車両：9 人乗りのジャンボタクシー 2 台
- 4 運行時間：7 時半から 18 時
- 5 運賃：地区内または地区外のみ利用は 1 回 300 円

「いない号」の導入効果として、定時定路線システムを採用することで IT システム費を削減し、廃止代替バス運行時の運行経費年間 2,300 万円に対し、半分以下の 1,008 万円の経費に抑えられている。住民と市の負担部分に関しては、約 1,800 世帯からの負担金が年間約 100 万円、石巻市からの補助金が約 202 万円となっている。

### 4.3 観光地循環バスの運行例

上記の先行事例を踏まえながら作成した観光地循環バスの運行例を説明する。

- ・運行形態：定時定路線システム
- ・運行車両：ジャンボタクシー 2～3 台
- ・運行ルート：  
菅の台バスセンター→駒ヶ根ファームス→西山荘→リゾートリンクス→すずらん颯→大沼湖→和みの湯宿なかやま→光前寺→こぶしの湯→くらすわの森・養命酒工場
- ・走行距離：片道約 9.7 km、往復約 19.4 km
- ・走行時間：往復約 110 分
- ・運行時間：8 時～17 時

運行形態に関しては、先行事例を踏まえ、デマンド型ではなく定時定路線システムを利用することでシステム費を削減する。また、公共交通機関を用いて訪れる観光客は、JR 駒ヶ根駅から菅の台バスセンターまではバスを利用することができる。そのため、菅の台バスセンターから開始させ、交通手段をもたない観光客が訪れるには難しいくらすわの森や養命酒工場まで、観光地を巡りながらルートをつないでいる。運行時間については、中央アルプスへ向かうロープウェイの営業時間に鑑みて設定している。

### 4.4 パークアンドライド方式

上記の観光地循環バスを整備した際にバスを確実に利用してもらうため、さらにパークアンドライド方式を導入することを提案したい。まずは、パークアンドライド方式がどのようなものであるか説明するために長野県松本市上高地で導入されている先行事例を見ていく。上高地では、自家用車による観光に伴う渋滞の緩和や環境汚染を防ぐためにパークアンドライド方式が導入されている。その概要としては、まず上高地への自家用車の乗り入れを禁止する。そして上高地の周辺にいくつか専用駐車場を設置し、自家用車で上高地まで訪れた観光客は専用駐車場に車を駐車して、上高地の区域内を通行できるシャトルバスに乗り換えて観光を行うというものである。この流れを大きく二分して整理すると、以下のようになる。

- 1 指定駐車場まで自家用車で来訪してもらう
- 2 観光地では交通手段を規制してバスを利用してもらう

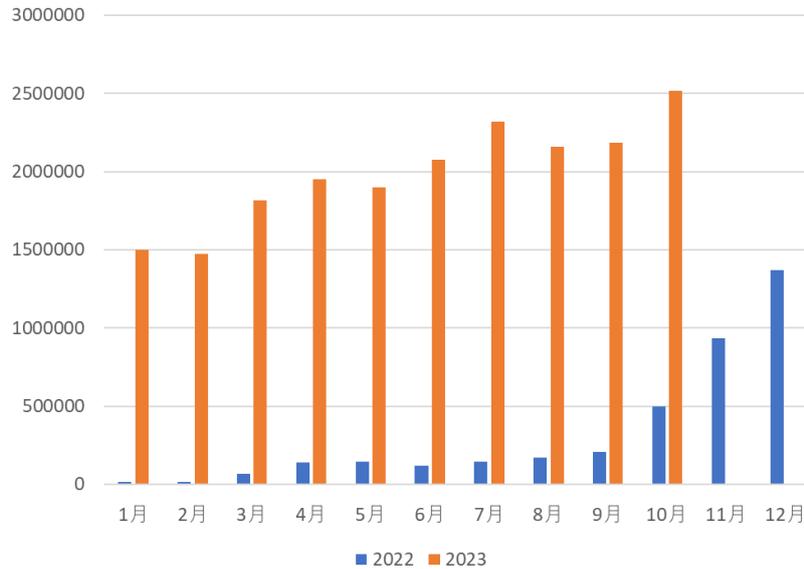
次は、この上高地のモデルが駒ヶ根市に対して適用できるのかについて検討する。1 に関しては、現在の駒ヶ根に適用することができると言える。一方で 2 については、交通手段をバスのみで規制した場合、必ずバスに乗り換えなくてはならず、バス料金を支払わなくてはならないため観光客が減少してしまう可能性がある。そこで、観光客減少を防ぎ、バスの利用者を確保するために、観光地をアピールして観光客自体の母数を増加させることも必要であると考えた。

### 4.5 インバウンド促進

観光客自体を増加させるためにターゲットにするべきであるのは外国人観光客だ。外国人観光客を積極的に呼び込む、つまりインバウンドを促進するべきであると考えている。その理由としては、訪日外国人観光客数が増加傾向にあるということと、日本の自然資源は外国人の注目度が高いということが挙げられる。

日本政府観光局 JNTO の報道発表資料に掲載されている 2022 年と 2023 年の訪日外客数の推移のデータによると、2023 年は前年よりも訪日外客数が増加していることがわかる。また、新型コロナウイルスの蔓延が落ち着いてきたことにより、今後はさらに外客数の増加が見込めるということが出来る。

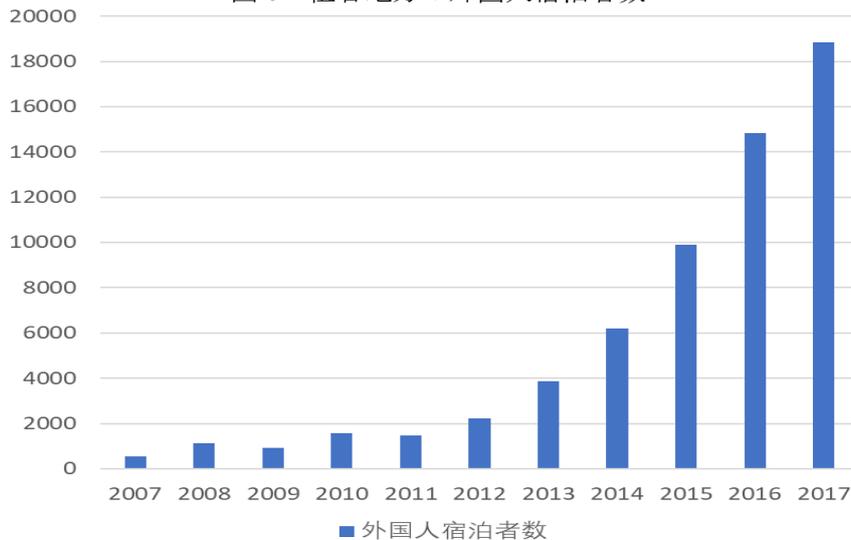
図7 2023年訪日外客数推移(対2022年比)



出典: 日本政府観光局 JNTO 「訪日外客数(2023年10月推計値)」、2023年11月15日  
[https://www.jnto.go.jp/news/20231115\\_monthly.pdf](https://www.jnto.go.jp/news/20231115_monthly.pdf) (2024/1/20に最終アクセス)

また、日本の自然資源は外国人観光客の注目度が高く、実際に豊富な自然資源を生かして外国人観光客をターゲット層に定めることで観光客数が大幅に上昇した観光地も少なくはない。その一つに、徳島県三好市祖谷地方がある。祖谷地方は祖谷溪や大歩危・小歩危といった雄大な自然資源を有する土地である。祖谷地方では温泉施設などが連携を行い、特に香港や欧米諸国をターゲットとして、自然や自然体験をメインとした観光プランを打ち出した。この積極的なインバウンド促進によって外国人宿泊者数は2007年と比較して34倍にも増加した。

図8 祖谷地方の外国人宿泊者数



出典: 「外国人宿泊客が2年連続1万人超 徳島・大歩危祖谷」『徳島新聞デジタル版』、2018年1月18日、<https://www.topics.or.jp/articles/-/15552>  
 (2023/11/26に最終アクセス)

外国人観光客に対する日本の自然資源の注目度の高さと、近年の新型コロナウイルス蔓延の鎮静化の動きから、駒ヶ根が有する自然資源を十分に生かすことができれば外国人観光客をさらに呼び込むことも可能である。

#### 4.6 駒ヶ根市のインバウンドの現状

以上を踏まえて、ここでは駒ヶ根市のインバウンドの現状はどうなっているのかについて見ていく。長野県観光部山岳高原観光課による令和3年の外国人延宿泊者数調査結果を見ると、駒ヶ根市を含む上伊那地域の外国人宿泊者数は多いとは言えず、同じ山岳資源を有する上高地を含む松本市と比較すると差は歴然である。従って、外国人に対してさらにアピールしていくことが重要である。

図9 令和3年 上伊那と松本の外国人宿泊者数

令和三年外国人宿泊者数（人）	
上伊那	797
松本	5,018

出典:長野県観光部山岳高原観光課 「令和3年観光地利用者統計調査結果」、「長野県公式ホームページ」

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kankoki/sangyo/kanko/toukei/documents/r3kankoutiriyoushateisei.pdf> (2024/1/29 最終にアクセス)

駒ヶ根市のインバウンドの現状から以下の提案をする。まず、現在運用している SNS にて英語でタグを作り、英語で投稿をするなど、外国人を明確なターゲットと定めて発信する。さらに、実際に駒ヶ根を訪れた際に快適に過ごせるように Wi-Fi 整備や英語表記の看板を設置するなどして、「また駒ヶ根を訪りたい」「駒ヶ根の良さを広めたい」と思ってもらえるように駒ヶ根のファンづくりをしていくことが重要となる。

#### 5. 結論

経済を活性化させるには観光地同士の相互作用を高めるべきである。そこで観光地循環バスを運営し、パークアンドライド方式を導入することで観光客が観光地を巡りやすくすることが必要である。また、バスの利用者を確保するためにインバウンドを促進し、観光客自体も増加させることも重要であると考えられる。

#### 6. 謝辞

ご多忙の中、貴重なお時間を割いて今回のサマースクールでのヒアリングにご協力いただいた方々に改めて感謝申し上げます。

- ・駒ヶ根市役所 商工観光課のみなさま
- ・駒ヶ根市観光協会のみなさま
- ・こまくさの湯のみなさま

## 7. 参考文献

- 長野県駒ヶ根市 「令和3年版 駒ヶ根市の統計」、「長野県駒ヶ根市公式サイト」  
(<https://www.city.komagane.nagano.jp/soshikiichiran/kikakushinkoka/shoshikataisa-kukakari/2/1/2781.html>) (2024/1/29 に最終アクセス)
- 一般社団法人駒ヶ根観光協会 「信州駒ヶ根ガイド」  
(<https://www.kankou-komagane.com/index.php>) (2024/1/29 に最終アクセス)
- 長野県駒ヶ根市 「令和5年度市民満足度調査結果報告書」、「長野県駒ヶ根市公式サイト」  
(<https://www.city.komagane.nagano.jp/soshikiichiran/kikakushinkoka/kikakuchoseigakari/1/1/10397.html>) (2024/1/29 に最終アクセス)
- 長野県駒ヶ根市 「駒ヶ根市道路整備プログラム【概要版】」、「長野県駒ヶ根市公式サイト」  
(<https://www.city.komagane.nagano.jp/soshikiichiran/toshikeikakuka/toshikeikakukakari/2/1/2795.html>) (2024/1/29 に最終アクセス)
- 国土交通省総合政策局交通計画課 「地域公共交通の活性化・再生への事例集」  
(<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/htm/all.html>)  
(2024/1/20 に最終アクセス)
- 国土交通省関東運輸局 「がんばる地域応援プロジェクト2019 松本市(長野県)」  
([https://www.tb.mlit.go.jp/kanto/koutuu\\_seisaku/gannbaru/index\\_2019.html](https://www.tb.mlit.go.jp/kanto/koutuu_seisaku/gannbaru/index_2019.html))
- 日本政府観光局 JNTO 「訪日外客数(2023年10月推計値)」、2023年11月15日、  
[https://www.jnto.go.jp/news/20231115\\_monthly.pdf](https://www.jnto.go.jp/news/20231115_monthly.pdf) (2024/1/20 に最終アクセス)
- 三好市 「大歩危祖谷ナビ<三好市公式観光サイト>」  
(<https://miyoshi-tourism.jp/>) (2024/1/20 に最終アクセス)
- 「外国人宿泊客が2年連続1万人超 徳島・大歩危祖谷」『徳島新聞デジタル版』2018年1月18日  
(<https://www.topics.or.jp/articles/-/15552>) (2023/11/26 に最終アクセス)
- 長野県 「令和4年 観光地利用者統計結果」  
(<https://www.pref.nagano.lg.jp/kankoki/sangyo/kanko/toukei/riyousya.html>)  
(2024/1/29 に最終アクセス)